

「未来がんプロ」の3つの柱と成果



・がんゲノム

→がんゲノム診療センターの設置

→秋田県との共同

(設備整備費用の予算措置)

(人件費の補助)

→がん診療連携協議会に
がんゲノム部会の設置

・プレジジョン医療

→がんゲノム診断に基づく医療

(受診患者の増加、R2+R3で>100名の受診)

・レアキャンサー

→がんゲノム診断の実施

→がん診療連携協議会に
AYA世代がん部会の設置



アレコレ兼任が多いが、
権力の集中じゃない。

地域に標準的ながん医療を定着させるため、第一期がんプロから数えて15年間の支援を得て、活躍の場を与えられました。秋田県のがん医療は、この間、施設、設備、制度、内容的にも飛躍的に向上しました。文科省、連携校、秋田県など関係各位に感謝申し上げます。

それでも、**ビリから平均点に近づけた**というだけであり、今後も県民、国民の健康維持のため平素の鍛錬に力めます。

秋田の“がん医療の成績”(R3年)

埴岡健一先生に評価いただきました。
(国際医療福祉大)

国の患者体験調査の結果〔全国値より数値が低いものから抜粋〕

項目名		全体	秋田県
医療	がんの診断・治療全般に関する総合的な評価の高い人	71.2%	65.8%
医療	一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思う人	76.3%	63.7%
緩和	がんやがん治療に伴う身体の苦痛がないと感じる人(本人回答のみ)	56.1%	46.6%
緩和	がんや治療に伴う痛みがないと感じる人(本人回答のみ)	71.9%	66.9%
緩和	がんやがん治療に伴い気持ちがつらくないと感じる人(本人回答のみ)	62.1%	53.5%
緩和	がんやがん治療に伴う身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがない人(本人回答のみ)	69.5%	61.0%
経済	医療を受けるための金銭的負担が原因で生活影響があった人	27.1%	35.9%
連携	紹介先の医療機関を支障なく受診できたと思う人(転院したことがある人)	83.4%	69.7%
連携	希望通りの医療機関に転院することができた人(転院したことがある人)	79.2%	70.9%
連携	治療に関係する医療スタッフ間で十分に患者に関する情報共有がなされていたと思う人	68.8%	61.2%
情報	治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた人	75.9%	68.3%
就労	治療開始前に就労の継続について医療スタッフから話があった人(がん診断時に収入のある仕事をしていた人のみ)	38.6%	31.5%
ゲノム	ゲノム情報を活用したがん医療について知っている人	18.3%	12.3%

緩和ケア、医療の質、連携調整、経済生活、就労支援...に改善余地がありそう

埴岡先生：先ほど、**新規承認抗がん剤の使用量**について秋田県をこっそり調べたのですが、**秋田県、全国4位**ぐらいだったので柴田先生も頑張ってるのだなと思ったのです。けれど、秋田周辺だけで、ちょっと他の地域には、なかなか浸透していないと思ったところです。